



石内 都 – 2014年度ハッセルブラッド国際写真賞受賞者

ハッセルブラッド財団は、日本の写真家石内 都氏を2014年度ハッセルブラッド国際写真賞受賞者としてご紹介できることを大変うれしく思っております。ハッセルブラッド国際写真賞賞金は100万SEK (11万EUR相当)。授賞式典は2014年3月6日に東京で開催予定です。石内 都氏の展覧会「Miyako Ishiuchi – 2014 Hasselblad Award Winner」は、2014年11月7日より、スウェーデン、イエテボリ市立美術館内のハッセルブラッド センターで開催が予定されています。同じく11月7日に、ハッセルブラッド財団は、受賞者によるセミナーを予定しており、石内 都氏の写真集も発表の予定です。

2014年度ハッセルブラッド国際写真賞受賞者の石内 都氏の業績表彰：

石内 都は、35年間にわたり、国際的なキャリアを確立してきました。そしてそれは深い感銘を与える力を持ち、かつ意義深いものです。彼女の人間的な強さと妥協を許さないビジョンは、戦後日本の個人的な表現というだけでなく、最もパワフルな表現として結実しました。石内の作品は、極めて首尾一貫しており、断固とした、かつ独自の方法で、展開しています。カメラとカメラのもつあらゆる美的可能性を使って、記憶の政治的な側面と個人的な側面が交差する様を探求しています。石内は、男性支配的な日本の写真界において、特に女性として、パイオニアであり、かつ若い芸術家達の模範でありつづけています。石内 都は、写真家としての活動を通じ、その考えやスタイルやアプローチにおいて、革新的であり、探求し、煽動し続けています。

ハッセルブラッド財団理事長に受賞者を提案した、本年度の受賞者選考委員会は下記の人達で構成されています：

***マルセル・フェイル (本年度委員長)**

FOAM (フォーム) 芸術部門副館長、アムステルダム、オランダ

***サイモン・ベイカー**

Tate Modern (テートモダン) 写真と国際的なアートのカリキュレーター、ロンドン、英国

***サンイー・チェ**

フリーランス アートアドバイザー、ジャーナリスト、

Choi & Lager Gallery (チェ&ラーガー ギャラリー) ディレクター、パリ、フランス

***ヘンク・スラーガー**

MaHKU、ヴィジュアル アート デザイン大学院学部長、オランダ

***ジーヨン・リー**

SUUM、ディレクター、インディペンデントキュレーター、ロンドン 英国、ソウル、韓国



石内 都

石内 都は1947年に日本の群馬県で生まれたが、横須賀で育った。横須賀は第二次世界大戦後の日本の本土にあるアメリカの主要基地のひとつである。石内は、1960年代東京のVIVO(ヴィーボ)やProvoke(プロヴォーク)といったグループに影響を受けた日本の写真家たちの世代に属し、緊迫した社会情勢を記録しようとする欲求と、主観的でほとんど詩的ともいえるような表現とのバランスをとるような、写真に対するアプローチに影響を受けている。

石内の初期の作品の横須賀ストーリー(1976-1977)は、自身が育った町横須賀がアメリカの占領により受けた影響を直接的に扱ってはいるが、同時に横須賀という町やその環境を間接的に、審美的なイメージをもって詩的に表現している。「占領」に対する言及は、抑制的で、間接的に表現され、横須賀という町に対する作者の記憶を表現しているようである。振りかえってみると、石内が、彼女の世代で最も真に迫る写真家として高く評価され、認められることになった「横須賀ストーリー」は「アパートメント」(1977-1978)「連夜の街」(1978-1980)の3部作のうちの一部として見なされる。さらに重要なことだが、これらの作品によって、石内は男性が優位であった写真界とその文脈の中で、女性写真家としての地位も確立した。

石内が、日本でこのように高く評価され重要視されているということは、木村伊兵衛写真賞を1979年度にすでに受賞したということからもわかる。しかし、石内は初期の栄誉に満足することなく、それ以後も絶えず新しい作品を意欲的に撮り続け、それらを展示し出版し続けている。

石内の2番目に重要な時期が「1・9・4・7」(1988-1989)「1906 to the skin」(1991-1993)、そして「Scars」(1991-2003)や「Innocence」(1994-2007)により始まる。この作品を撮るために、石内はその美的表現様式を見直し、ザラザラした粒子の荒い、暗示的な1970年代から、ミニマリズム的で輪郭のはっきりした画像による表現に移行し、時間の経過を人間の体で描写した。

石内は2005年に、ヴェネチア・ビエンナーレに日本館代表として選ばれ、「Mother's」(2000-2005)を展示した。写真集は、母親の残した品物、特に肌に直接ふれていたような遺品の記録をもとにしている。物を撮っているにもかかわらず、自分の母親をきわめて個人的な思いを表現することで、戦後日本の女性の生き様をユニークな視点で提示している。

この作品が、原爆が日本社会に与えた影響を長い時間をかけて撮り続ける「ひろしま」(2007-)に展開していった。「ひろしま」では、原爆のあと、遺品で今日まで保存されていた品物(衣類、個人的な品物やその他の物品)を撮影している。石内は、その最新シリーズの「絹の夢」(2009-2012)において、日本の絹織物産業の歴史、着物のもつ意味あいや、過去には重要な織物の産地だった自分の生まれた町についても言及している。

表面の意味や扱いが、石内の作品においては深い意義合いをもっている。一つの表面は、それが人間の皮膚や個人の衣服であっても、その内側にあるものを隠すことと露にすることの両方を可能にしているだけでなく、内部と外部、私的なものと公的なもの、そして過去と現在という2つの世界の間にあるものとして



HASSELBLADSTIFTELSEN
HASSELBLAD FOUNDATION

ふるまう。表面は、度々、過去の出来事を証言する。それ故時間の経過の証人ともいえる。そのため、石内は、写真の引伸しや写真プリントの表面の質というものに非常にこだわりをもっている。

記憶の政治的問題、特にアメリカによる日本への原爆投下を巡る悩ましい問題に正面から挑む石内は、政治的な動機で活動する伝統に彼女を位置づけた。その伝統には東松照明や川田喜久治といった巨匠も含まれる。石内は日本国内においても35年間にわたり、作品を出版し、展示し続けてき、重要なキャリアを確立しただけでなく、国際的にも高い評価を受けており知名度も高い。ヨーロッパ各地やアメリカで何回にもわたり展覧会が開催されたのみでなく、石内の作品は世界各地の主要コレクションに含まれている。石内は彼女の世代における最もひたむきな写真家の一人だ。石内 都は、写真家としての活動を通じ、その考えやスタイルやアプローチにおいて、革新的であり、探求し、煽動し続けている。

ハッセルブラッド財団

ハッセルブラッド財団は、ヴィクター・ハッセルブラッド博士と妻のエールナの最後の遺言により1979年度に設立されました。財団の目標は、科学教育と自然科学および写真部門での研究を促進することです。財団の賞の一つで、偉大な業績をあげた写真家に与えられ、世界でも最も重要な写真賞であるとみなされている毎年の国際写真賞は、2014年度は石内 都氏に与えられることになりました。

イエテボリ市立美術館内のハッセルブラッド財団の展覧会場であるハッセルブラッド センターでは、毎年4-5回展示が開催されていますが、毎年、その年のハッセルブラッド国際写真賞受賞者の展示も開催しています。恒例の展覧会の一つ、New Nordic Photographyでは、若い写真家の作品を紹介しています。さらに、スウェーデン国内やヨーロッパ諸国においても巡回展も開催しています。財団は、ハッセルブラッド国際写真賞受賞者やNordic写真賞受賞者の作品を主としたコレクションも保有しています。

石内 都の作品は2014年11月7日からハッセルブラッド センターで展示され、キュレーターはドラガナ・ヴヤノヴィックとルイーダ・ヴォルターが予定されています。

イエテボリ 2014年3月6日
ハッセルブラッド財団
エークマンズガータン 8
SE 412 56 イエテボリ、スウェーデン

お問い合わせ及びプレス資料のご請求先：www.hasselbladfoundation.org

ユーザー名：**press** パスワード：**Hs2014**

またはJenny Blixtまでお問い合わせください。

電話：+46 31 778 21 54

jenny.blixt@hasselbladfoundation.org